

山口情報芸術センター [YCAM]

YCAM InterLab Camp vol.5

## ホモ・コーデンス AI時代、人類はどう描くのか

2024年10月25日(金)～10月27日(日) [3日間通し]

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

いま、コードで描くことの可能性を探る —

第一線で活躍する技術者や研究者がYCAMに集結！

山口情報芸術センター[YCAM]では、第一線で活躍する研究者やアーティストを招き、今後の表現において重要になるであろうトピックやツールについて学ぶ集中ワークショップシリーズ「YCAM InterLab Camp(インターラボ・キャンプ)」の第5弾、「ホモ・コーデンス AI時代、人類はどう描くのか」を開催します。人類は、洞窟壁画の時代から現在に至るまで、さまざまな道具を用いて創作活動を行ってきました。また、道具の進化は、常に私たちの創造性に影響を与え続けてきました。コンピュータの登場以降、プログラミングによる表現方法は急速に広まりました。近年のAI技術の発達はこの流れをさらに加速するでしょう。今後、誰もが日常的にコーディングを行う未来が来るかもしれません。

本キャンプでは、コンピュータのアルゴリズムによって生成される「ジェネラティブアート」の制作を行うアーティストや研究者らを招き、AI技術とコーディングを組み合わせた表現手法を実践的なハンズオンとレクチャーを通じて探求します。メディア・テクノロジーとクリエイティビリティの今日的な関係性を探る本イベントは、テクノロジーの新しい応用可能性を描き出すでしょう。ぜひこの機会にご参加ください。



イベントのメインビジュアル  
(Illustrated by Takawo Shunsuke with AI (DALL-E 3)  
Designed by Akari Sakamoto

※ ホモ・コーデンス：コンピュータに対して命令を与えるためのコードを用いて創造的な表現を行う人間の姿を表した造語

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課 広報担当

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: [press@ycam.jp](mailto:press@ycam.jp) ウェブサイト: [www.ycam.jp](http://www.ycam.jp)

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

## アルゴリズムで描くことのこれまでとこれから — 生成AI技術と創造性の関係性を紐解く



「YCAM InterLab Camp vol.4 遠隔・身体・共創」開催の様子  
(2022年/撮影:谷 康弘)

近年のAI領域における技術の進化と実用化は、私たちの生活に大きな影響を与えています。

メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を展開してきたYCAMでは、これまで多くの作品制作や研究開発プロジェクトを通じて、人とAIが共創することで生まれる新しい表現に挑み続けてきました。本キャンプでは、共同プログラムディレクターとして一般財団法人ジェネラティブアート振興財団代表理事/アーティストの高尾俊介氏を迎え、特に画像生成系AIに関連する技術やAIによるプログラミング支援技術に焦点を当てます。誰もが自然言語を用いて対話的にコードを用いて描き、表現する未来の姿を見据えつつ、AI技術が人間の創造性やコーディングという行為自体に与える影響を深く考察します。またキャンプ初日にはヨーロッパを拠点とするジェネラティブアートの研究組織 Le Random (ル ランダム) からPeter Bauman氏が登壇。人類がアルゴリズムを用いて描画を行ってきた歴史的経緯から現在のジェネラティブアートへの接続について、学術的な観点からレクチャーを行います。

この3日間の集中キャンプでは、国内外で先進的な取り組みを行うゲストを講師に迎え、「ホモ・コーデンス AI時代、人類はどう描くのか」をテーマにレクチャーやワークショップを開催。AIの進化がもたらすクリエイティビティへの影響や、今日的な課題について、理解を深めるとともに、表現を軸とした応用可能性を模索していきます。

### ■ AIとの共創をテーマとした作品

鎖国 [Walled Garden] プロジェクト/ローレン・リー・マッカーシー+カイル・マクドナルド 新作パフォーマンス

アンラーニング・ランゲージ (2022年)



撮影:谷 康弘

YCAMが国内外のさまざまな専門家とおこなってきた研究開発プロジェクトの成果展にて発表した、「AIにはない人間の資質とはなにか?」というテーマを探求した、観客体験型のパフォーマンス作品。展覧会会期中、AIの今日的状況に触れる展示やトークイベントも多数開催した。

### 石若駿+ YCAM 新作パフォーマンス公演

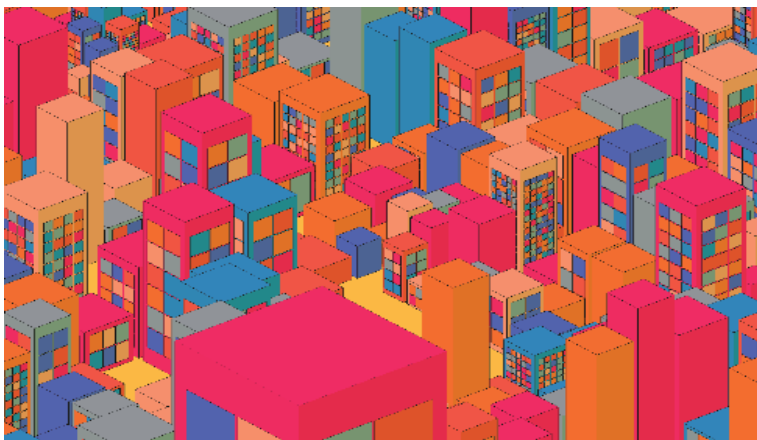
Echoes for unknown egos — 発現しあう響きたち (2022年)



撮影:谷 康弘

打楽器奏者の石若駿と、石若のパフォーマンスを学習したAIエージェント(代行者)が即興のセッションを繰り広げるパフォーマンス作品。演奏を通じてAIとコミュニケーションをとることで、音楽性を再確認し、表現の拡張を試みた。

## アルゴリズムで「100枚の絵を描く」



Illustrated by Takawo Shunsuke

今回開催するYCAM InterLab Camp vol.5:「ホモ・コーデンス AI時代、人類はどう描くのか」では、コンピュータを用いたジェネラティブアートの表現手法を学ぶとともに、近年、発展が著しいAI技術によって生まれる新たな領域に関するレクチャーやワークショップなどを多数開催。最終日の成果発表に向けて、参加者同士の交流を通して制作を進めます。またキャンプで制作された成果物はYCAM館内で小規模展示としての展開を予定しています。この機会を通じて、理解を深め、今後の応用可能性を探るとともに、関心のある人々によるコミュニティの形成を図ります。

### 1日目（10月25日）：手で描く

高尾俊介らをモデレーターに迎え、国内外からゲストを招いてレクチャーを開催。先行事例や技術、動向、課題について理解を深めるとともに、p5.jsを使って自分たちの手でコードを書いてみます。

### 2日目（10月26日）：AIとコードで描く・ハッカソン

人の手によって書かれたコードは、AIと自然言語を用いて書くことができるようになりました。ここではハンズオンで実際にコードを書くだけでなく、AIが創作にもたらす影響についてクロストークを実施。その後、翌日の作品プレゼンテーションに向けたハッカソンを行います。

### 3日目（10月27日）：「100枚の絵を描く」ハッカソン・プレゼンテーション・講評

参加者によるショートプレゼンテーションと講師陣によるフィードバックを通じて、AIとコーディングを組み合わせた新たな絵の描き方の可能性を探っていきます。

### ■ 高尾俊介（たかお・しゅんすけ）

1981年熊本県出身。クリエイティブコーダー。2011年SNS上でIT用語と駄洒落による言葉遊びを競う「#takawo杯IT駄洒落コンテスト」を個人主催する。2019年、プログラミングを日々の生活や来歴、風土や固有の文化と結びつけるための活動としてデイリーコーディングを提唱、現在も実践している。2021年、NFTアートプロジェクト「Generativemasks」を発表、発売から2時間あまりで1万個完売するなど話題となった。Processing Community Japan所属。一般財団法人ジェネラティブアート振興財団代表理事。

### ■ Peter Bauman（ピーター・パウマン）

香港大学で2つの修士号を取得。ジェネラティブアートをアート史のなかで文脈化し、時代ごとのジェネラティブアートコレクションや、過去の理解から未来の可能性までも伝えるエディトリアルコンテンツを発行するジェネラティブアート機関「Le Random」の編集長。ジェネラティブアートコミュニティ「Tender Art」の創設メンバーでもある。2023年、Non fungible Conference in Lisbonでのfeels like home展のキュレーションに従事。彼の文章はRight Click Saveに掲載され、ユーザーがNFTと記事を交換できるプラットフォーム「fxtxt」の最初のコンテンツとなった。Bright Moments開催都市でのイベントの他、The Digital Art Mile Basel 2024、The Generative Art Conference Berlin 2024などで定期的に講演を行っている。

### ■ 久保田晃弘（くぼた・あきひろ）

多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース教授。「ARTSATプロジェクト」の成果で、第66回芸術選奨の文部科学大臣賞（メディア芸術部門）。近著に『遙かなる他者のためのデザイナー—久保田晃弘の思索と実装』（BNN, 2017）『メディア・アート原論』（フィルムアート社、共編著、2018）『アナログ・アルゴリズム』（BNN、監訳、2024）などがある。

## 開催概要

## YCAM InterLab Camp vol.5

## ホモ・コーデンス AI時代、人類はどう描くのか

2024年10月25日(金)～27日(日) [3日間通し]

25日10:00～21:00 / 26日9:00～18:00 / 27日9:00～14:30

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

定員: 30人※ 参加無料(要申込)

対象: 当該テーマに興味を持つ高校生以上の方※

持ち物: ラップトップPC

ワークショップ中に使用する主な制作環境:p5.js

※申込多数の場合は、応募内容をもとに主催者にて選考を行い、参加者を決定します

※未成年者は保護者の許可が必要です

## タイムテーブル

## 1日目(10月25日)

10:00～11:00	オリエンテーション	登壇: 高尾俊介、伊藤隆之、菅沼聖*
11:00～12:00	ハンズオン: ルールで絵を描く	登壇: 高尾俊介
13:00～14:30	レクチャー: イントロダクション	登壇: Peter Bauman
15:00～17:00	ハンズオン: ルールで絵を描く	登壇: 永松歩
17:30～18:30	レクチャー (オンライン)	登壇: 中山晃子
18:30～19:30	クロストーク	登壇: 高尾俊介、橋本麦
19:30～21:00	ネットワーキング・レセプション	

## 2日目(10月26日)

9:00～9:30	ハンズオン: Daily Coding 体操	登壇: 高尾俊介
9:30～11:00	ハンズオン: AIを使った自然言語コーディング	登壇: 倉橋真也
11:00～12:00	クロストーク	登壇: 久保田晃弘、木原共
13:00～15:00	ハンズオン: AIを使ったコード生成	登壇: 田所 淳
15:00～15:30	チームメイキング	
15:30～17:30	ハッカソン「100枚の絵を描く」	
17:30～18:00	中間発表	

## 3日目(10月27日)

9:00～9:30	ハンズオン: Daily Coding 体操	登壇: 高尾俊介
9:30～15:00	ハッカソン「100枚の絵を描く」※	
15:00～17:00	プレゼンテーション+講評会	

※途中休憩あり

\*YCAMスタッフ

主催: 山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援: 山口市教育委員会

協力: 一般財団法人ジェネラティブアート振興財団

助成: 令和6年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

共同開発: YCAM InterLab

企画制作: 山口情報芸術センター[YCAM]

## ■ 申込方法

ウェブサイトからお申し込みください。

ウェブサイト:

[www.ycam.jp](http://www.ycam.jp)

## 同時開催イベント

## sound tectonics #27 / Coding Discussion

2024年10月26日(土) 19:00～21:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

ライブコーディングをテーマとしたライブ・イベント (要申込・有料)